

企業ニュース ピックルスコーポレーション

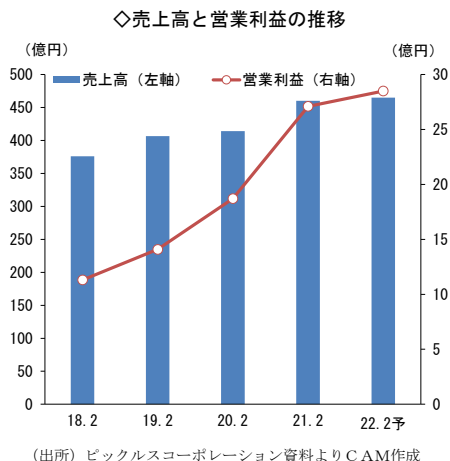
(東証1部: 2925) <https://www.pickles.co.jp/>

作成者: 高見澤晶子

「ご飯がススムキムチ」を手掛ける漬物業界最大手

浅漬けやキムチ、総菜の製造販売および漬物の仕入れ販売を行っている。主力製品は2009年に発売した「ご飯がススムキムチ」で、日本人の好みに合わせた味付けや食べ切りやすいサイズが支持されている。21. 2期の品目別売上高構成比は製品65% (浅漬け・キムチ43%、総菜20%、ふる漬け2%)、漬物や調味料などの仕入れ商品35%。会社資料によると、同社は漬物市場で14. 4%のシェアを持つ最大手であり、M&Aを含めてシェア拡大を図っている。

前期はコロナ禍で家庭での食事の機会が増え、キムチや総菜の需要が増加。また、健康志向という点で乳酸菌を含むキムチへの関心が高まったことも寄与し販売が好調に推移した。今期も好調さを維持すると期待されている。



巣ごもり需要継続で好調な推移が続く

22. 2期・第2四半期累計 (3-8月) の連結業績は、売上高が244億円、前年同期比微増、営業利益が22億円、同25%増。売上高は巣ごもり需要が継続したことで前年同期並みを確保、ナムルやサラダなど野菜を使った総菜の販売が好調だった。利益面では、総菜など好採算な自社製品比率上昇や、原料野菜の仕入れ価格が前年同期と比較して安定したことなどにより粗利益率が改善。また、生産アイテムの集約による生産性の改善も寄与、販管費増をカバーし大幅増益となった。

22. 2期の通期会社計画は、売上高が465億円、前期比1%増、営業利益が29億円、同5%増。前年好調の反動もあり微増収にとどまるものの、調達コストの抑制や生産効率の改善などにより利益を確保する計画。会社は通期計画を据え置いたが、下期の苦戦を見込んでいるわけではなく、天候要因に左右されやすい第3四半期 (9-11月) の原料調達状況を見て精査したいとコメント。足元の原料野菜価格上昇については市場価格ほど影響が大きくなり、会社想定内で推移している模様。上期までの営業利益の進捗率は78%と高く、上振れが期待できよう。

【株価動向・投資判断】

顧客ニーズを捉えた製品開発を評価したい。M&Aによるシェア拡大、生産アイテム集約や工場の自動化などの生産効率改善による収益拡大が見込めよう。

<2925 ピックルス 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20. 2	41, 417 (2)	1, 871 (33)	1, 973 (26)	1, 290 (40)	201. 7	30. 00
21. 2	46, 020 (11)	2, 711 (45)	2, 829 (43)	1, 832 (42)	285. 9	35. 00
22. 2 予	46, 500 (1)	2, 850 (5)	2, 940 (4)	1, 900 (4)	147. 8	17. 50

(注) 2021年9月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施。22. 2期予の1株利益および1株配当は当該株式分割考慮後の数値。



【主要株価指標】 (売買単位: 100株)	
株価 (2021/10/15)	1, 795 円
年初来高値 (高値日)	2, 277 円 (21/9/24)
同 安値 (安値日)	1, 540 円 (21/1/4)
予想 P E R (22. 2 予)	12. 1 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	1, 248. 1 円
P B R	1. 44 倍
予想配当利回り	0. 97 %
(1株当たり配当金年17. 50円)	
R O E (21. 2)	13. 3 %
発行済み株式数	1, 286 万株